

# そすいさんぽ

## CANAL WALK

### 疏水分線コース

#### Branch Canal Course

琵琶湖疏水  
LAKE BIWA CANAL

日本遺産  
JAPAN HERITAGE

### そすいさんぽ全コース概略図

「そすいさんぽ」には、琵琶湖疏水を巡る3コースがあります。各コースに、琵琶湖からの距離を示す、約1キロごとのサイン\*が設置されています。  
\*サインには、電柱やフェンスへの掲示も含まれます。

### そすいさんぽ全コース概略図

疏水分線コース  
鴨川運河コース  
大津-鴨川コース

琵琶湖から 20km  
堀川紫明  
琵琶湖から 19km  
紫明通  
琵琶湖から 18km  
北大路橋  
琵琶湖から 17km  
松ヶ崎浄水場  
琵琶湖から 16km  
赤の宮橋  
琵琶湖から 15km  
東寺西橋  
琵琶湖から 14km  
梅ノ木橋  
琵琶湖から 13km  
高野橋  
琵琶湖から 12km  
右王子橋  
琵琶湖から 11km  
ねじりまんぼ  
琵琶湖から 10km  
堀川紫明

### ルート高低差表

距離 (km)	標高 (m)
20	60
19	60
18	60
17	60
16	60
15	60
14	60
13	60
12	60
11	60
10	60

そすいさんぽ 全長9.7km 所要時間の目安 3時間14分 (毎分50mで算出)

● そすいさんぽルート  
● 河川等  
● 河川等(暗きよ)  
● トイレ ● 桜スポット

### コラム

**7 等高線に沿って流れている琵琶湖疏水**  
疏水分線は、鴨川や桂川など京都市内を流れる川とは違い、南から北に向かって流れており、一見すると標高の高い方に逆上っているように見えます。疏水のルートは実は、等高線に沿うように設計されており、疏水の水ができるだけ広い範囲に流れるよう、水路の勾配が緻密に計算されているのです。

**8 旧鐘紡京都工場**  
明治41(1908)年に操業を開始した鐘紡京都工場は、原料の洗浄などに疏水の水を利用していました。現在の左京区高野東開町辺りが、その工場跡に当たります。

鐘紡京都工場跡

**9 かつての疏水分線(紫明通)**  
琵琶湖疏水が完成した頃、疏水分線は小川頭(現在の北区紫野宮東町)までの約8.4kmでした。戦後、賀茂川以西の水路は廃止になり、紫明通となっています。現在は平成の堀川水辺環境整備事業により、第2疏水分線から引いた水は賀茂川の下を通り、紫明通の中央分離帯を流れています。紫明通の北側には、「疏」と刻まれた境界杭がいくつも残っています。

疏水分線の終点(小川頭、昭和14年)





**疏水分線とは**

沿線各地への水力利用、かんがい用水、防火用水の供給を目的に設置されました。熊野若王子神社から浄土寺橋に至る疏水分線沿いの遊歩道は、京都大学の哲学者・西田幾多郎らが思索にふけたとされることになみ、「哲学の道」と呼ばれています。



**コラム**

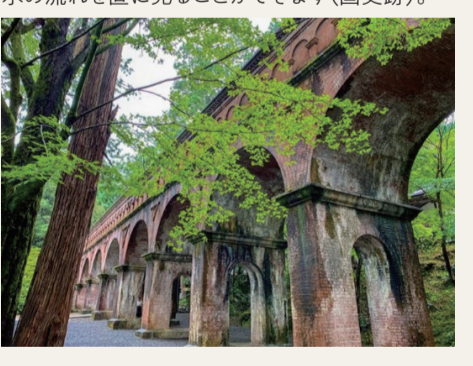
**① 南禅寺界限別荘群**

南禅寺の塔頭跡地に、近代最高峰の作庭家七代目小川治兵衛(植治)の活躍もあり、疏水の水を利用した近代庭園群が形成されました。山縣有朋の別邸である無鄰菴や平安神宮の神苑などがあります。



**② 水路閣**

名刹・南禅寺の境内にかかるアーチ型の水路橋で、明治21(1888)年に完成しました。蹴上から若王子へ水路を通すに当たり、田邊朔郎が地形や景観を考慮して設計したものです。橋上からは疏水の流れを直に見ることができます(国史跡)。



**③ 扇ダム**

第5トンネルと第6トンネルの間にある「扇ダム」。主にここから南禅寺界限別荘の庭園群に引水され、防火用として水利用の申請を受けています。※一般の方は立入りできません。



**④ 旧若王子プール**

琵琶湖疏水のユニークな活用方法としてプールがありました。昭和40年代までは、市内小学校にプールはなく、水泳の授業は、豊富な水量がある疏水を活用した若王子プール、南禅寺プール、東川船溜などで行われていました。



**⑤ 真如堂の石灯籠**

真如堂の元三大師堂の前にある「工学博士田邊朔郎君頌徳紀念」と刻まれた石灯籠です。疏水のおかげで水不足に困らなくなったお礼として、白川村(当時)の村長が奉納しました。



**⑥ 幻の工業都市計画**

北垣国道知事は、疏水の水で水車を回して工業機械の動力に利用するため、鹿ヶ谷・哲学の道近辺に工業地帯の整備を考えました。しかし、整備工事には多額の経費が掛かり、また水力発電所の建設計画が持ち上がったため、水車による工業都市計画は実現しませんでした。

